

Dance Around the World



11月4日午後、杉並公会堂グランサロンにおいて Dance Around the World が行われ、50名以上の参加がありました。演奏は小海弘子さん（ピアノ）と大森ヒデノリさん（フィドル）、MCは辰巳由利子さんと浅井恵子さんで、参加者を大いに楽しませてくれました。みなさんにお礼申し上げます。

ブランチ・クラス

千代田区立スポーツセンター多目的室
1月はNew Year Dance 2025のため休みます。
2月16日（日）1:30-4:00 講師 小杉 由美子
お問合せ：担当 渋谷明美 047-351-8581

New Year Dance 2025

1月11日（土）1~4.30
杉並公会堂・グランサロン
音楽：大森ヒデノリ・青山るり
賀詞交歓もかねてぜひお越しください

2025年がみなさんに
良い年でありますよう

ブランチ行事予定

6月初め 年次総会&ソーシャル・ダンス
8月3日（日） Book 54 ダンス講習会
杉並公会堂・グランサロン

本部オータム・ギャザリング報告

－ クレメント篤子 －

11月1日～3日、エジンバラにおいて年次総会 AGM とその前後にクラス、ボールを含む本部オータム・ギャザリングが開催されました。以下はクレメント篤子さんの報告です。

11月1日 金曜日

12:00 エディンバラ・ブランチ主催コンサート: オータム・ギャザリングに先立ち、ミュリアル・ジョンストン(ピアノ)、ピート・クラーク(フィドル)、ピーター・シャンド(ピアノ)、ティム・マクドナルト(フィドル)による1時間余りのコンサートがキャノンゲート教会で開催され、海外からもたくさんお越し頂き楽しんで頂きました。

オータム・ギャザリングはエディンバラ・ブランチの100年記念の年ということで、エジンバラのメドウバンク・スタジアムで多くの国から約320人が参加して盛大に開催されました。

20:00~23:30 オータム・ギャザリングー ソーシャル・ダンス: 5-piece band Gordon Shand の素晴らしい音楽と International Branch のダンスプログラムで、クリス・ハリスとマージョリー・マクロロランの MC で楽しめました。

11月2日(土) は、「ボードメンバーと逢おう」というタイトルで9時半から開催されましたが、テーブル毎に各委員と質疑応答という形で、もっと一般的な全体ディスカッションを期待していたので特に特定の質問がない場合は、戸惑うばかり……。期待外れでした。

10時半からのクラスは、予定されていたグレアム・ドナルドが病欠で急遽レイチェル・シャンクランドがティーチャーとなりました。音楽はミュリアル・ジョンストンで、久しぶりの彼女の素晴らしい演奏が100人ぐらいの参加者があったクラスを盛り上げました。取り上げられたダンスは、

Whigmaleeries (32R) Imperial Book 2-3

St Margaret Loch (32S) Imperial Book 4-10

The Roaring Twenties (32R) Edinburgh Centenary book

2時半からパイパーの先導でチェア、チェア・エレクト、トレジャラーと本部チーフが壇上に上がり、総会が始まりました。

今回は過去のチェアが全員出席されました。

総会はチャールズ王からのロイヤル・グリーティング、昨年の総会議事録の承認、一年間のレポートと会計報告、監査人の承認、会費が£1値上がりされ来年度は£29の承認、RSCDSのチェアの任期を3年に・チェア・エレクトの任期を1年に、ソサエティの Rules and Procedures の言葉遣いの変更、新チェアは選挙なしでガレイ・クール (Gary Coull)の承認と順調に進み、委員会の選挙結果の発表となりました。

Education & Training 委員会: Abbie Brown, David

Queen, Fiona Grant が各3年、Deirdre MacCuish-Bark が2年

Membership Services 委員会: Beatrix Wepner & Susan MacFadyen が各3年、Niall Bootland & Paul McKnight が各2年、Deborah Crossley & Katharine Hoskyn が各1年

Society Scroll はチェアのウィリアム・ウィリアムソンから、アバディーンのアコーディオン奏者フランク・トムソン (Frank Thomson) とスコットランドのホイック出身でアメリカのカロライナ在住のエイリーン・イエーツ (Eileen Yates) に手渡されました。シドニー・ブランチのブライアン・チャールトンには現地オーストラリアで授与されます



前チェアのウィリアム・ウィリアムソン (左) と新チェアのガレイ・クール

エディンバラ・ブランチ・チェアのディビット・ワトソンにより、イベント開催に携わるそれぞれの方々への感謝が述べられた後、新チェアが来年のオータム・ギャザリングは、11月1日にグラスゴーで開催されることが宣言され、総会は16:25に終了されました。

7時からワイン・レセプション、エディンバラ・ブランチの子どもたちと大人によるデモンストレーションがあり、8時から11時半まで、ジム・リンゼイの6-piece band のとてもイクサイティングな演奏とエディンバラ・ブランチのプログラム、アンドリュー・ノーランとエリザベス・ハリーの MC でのボールも最後のオールド・サイン(蛍の光)とポルカまでとても盛り上がり過ぎて終わりました。

11月3日(日) 9時半からウィリアム・ウィリアムソンの司会で、スクロールを受賞されたエイリーン・イエーツがご主人の死後300人が居住するリタイアメント・ホームで、軽度の認知症を含む老人対象のSCDの会を始めた経験談を披露されました。それに関して、ソサエティの試験で教えられたことを、いかに環境に対応したらいいかの話し合いがありました。重要なことは、教える対象により分かり易いようにまたは覚えやすいように用語を変えたり、ステップなども柔軟に対応して「楽しく、フレンドリー」に、また「次にも参加したい」と思わせるか……が強調

されました。

あまりにソサエティの試験で習った方法を守ろうとしたり、「こうでなければならない」と思い込んで柔軟さに欠ける傾向があることが取り上げられ、何が重要かを忘れていないか、教える対象が求めることが何なのかを見失うことがないように、柔軟に対応すべきだという警告でした。10時半から12時まで、フェイ・マクニールのティーチングとアダム・ブラディのピアノでクラスがありました。

Love in the Marais (32R) Paris Branch Vol 1

最近の本部ニュース

- ・2025年度の本部会費額は1ポンド上がって29ポンド(¥5,800)になる。
- ・英国外宛のマガジンは郵送費節約のため、いろいろな送達方法を模索している。39号はスウェーデンのマルメ市から発送した。
- ・2025年のサマースクールは7月13日から8月10日。早割の締切りは1月末である。

運営委員会報告

2024.11.1 (港区生涯学習センター。以下同じ)

- ・11/4 Dance Around the World の準備を最終確認した。1月のNew Year Dance で何を会場準備すべきか、11/4に再確認する。
- ・2024年2月はクラスを行なう。
- ・10/12のUnit 1 試験は無事終了した。
- ・マガジン39号遅ればせながら到着。12月の日本語版発送に間に合うよう翻訳を依頼した。
- ・3ブランチ合同ダンス会、わがブランチは開催日(11/23)や場所にこだわらないと他ブランチに回答する。➤

安全・健康・好運を祈願



運営委員会は11月1日、新橋・烏森神社に参拝し、行事の安全・会員の健康・会場抽選の好運を祈願しました。年末年始の同神社は大変な混雑のため、11月に参拝したものです。

My Friend Joe (32S) Book 38

Tap the Barrel (32R) Graded Book 3

ソサエティのオータム・ギャザリングは以上で終了しましたが、日曜の午後2時半からエディンバラ・ブランチ主催で2時間のステップ・クラスが開催されました。参加者からの希望で「サマー・イン・ザ・ガーデン」と「イーロンドュール」の2ダンスを、モエラ・リーキーのピアノとアツコ・クレメントにより途中コーヒープレイクを挟んで講習されました。

2024.12.6

- ・11/4 Dance Around the World は、参加者数はやや少なかったものの、ライブ音楽で楽しかったとの参加者の言葉。当日の様子はセクレタリから本部に写真付きで報告した。
- ・1/11 New Year Dance の進め方は11/4に準じる。
- ・3ブランチ合同ダンス会は2025年11月23日、同29日のいずれも会場確保できず、立ち消えとなった。
- ・3/8のUnit 1 試験は東海ブランチ主管で実施される。
- ・会員から、ホームページのグループ紹介に連絡先の住所・電話番号などが記載されているが、個人情報保護の観点からホームページでは非開示とすべきではないか、との指摘あり。1月末までに連絡先住所は現ホームページから削除することで処置を進める。2025年度は登録時、開示・非開示の希望を聞き、対処する。
- ・本年6月の年次総会で、チェアマンをチェアに・運営委員の再選を可とする、などブランチ規約改正を行なった。本部に改正済み英文規約を送ったところ文言上で改善を求められ、英文規約をさらに変更した。ブランチ運営に支障ない条項であるが、該当する日本文規約を整理し、必要あれば2025年の年次総会で最終文章の承認を求める。
- ・2025年秋に杉並公会堂グランサロンでブランチ・ダンス会を行なうことにし、予約など準備を進める。

能登大雨災害義援金を石川県に

1月の地震で大被害を受けた能登地方は、9月下旬に再び豪雨で被災しました。Dance Around the World で義援金をお願いしたところ22,630円の献金があり、11月6日全額を石川県に送金・寄付しました。ご厚意をお寄せくださったみなさまにお礼申し上げます。

フィドル奏者 大森ヒデノリの作り方 その2

中世ルネサンスの古楽演奏の現場でフィーデルという弓奏弦楽器を演奏していた私は、その奏法研究をしているうちに、次第にフォークミュージックで演奏されるフィドルに魅力を感じる様になります。当時はネットもありませんでしたので、CDやビデオといった資料を入手しては現地のフィドラーの演奏を真似て練習、京都や大阪のアイリッシュ・パブで開かれていたセッションに参加し曲を覚えるといった日々を過ごしていました。

そのように入手したCDの中に『スカンジナビアの溪谷から』というスウェーデン伝統音楽を収録したアルバムがありました。中でも「ポルスカ」という舞曲は面白く、バロック宮廷舞踊の「ポロネーズ」の片鱗が残っているものもあれば、三拍子をカウントできないほど「うねり」と「ゆらぎ」のあるものも。フィドルは独特の装飾をつけながらビブラートをかけずに演奏されるという、それまで聴いたことのないものでした。

「現地では実際にどんな風に演奏され踊られているのだろうか？見てみたい・・・」という思いがつのるなか、スウェーデン人のフィドラーが大阪にいてということを知り、会いに行くことになりました。エヴァというダーラナ地方出身の女性で、さっそく故郷の伝統曲を沢山教えてもらいました。楽譜を使わずに先生の演奏を少しずつ真似をしながら一曲を覚えるという伝統音楽の教授法を初めて経験したのもこの時です。後に彼女には現地でのサマースクールや音楽祭への参加もコーディネートしてもらおうなど本当にお世話になりました。

ある日エヴァさんは、京都でスウェーデンダンスの例会があるから見に行こうと誘ってくれました。現地のダンサーとも交流をもち、本格的なダンスを長年にわたって踊ってこられた「SVEPAN」というグループでした。初めてスウェーデンのダンスを目の当たりにして、これまでCD相手に「ああでもない、こうでもない」と独りで練習してきた舞曲の数々の謎が解けていくようで感激したものです。そして何曲か自分の生演奏で踊ってもらいましたが、これが記念すべき初めてのダンス伴奏経験となりました。その後何年にもわたり SVEAPAN の例会で演奏を担当することになるのですが、ダンスを理解することで自分の演奏技術もブラッシュアップされることを実感し、そして何よりもダンサーとともに作り上げる楽しさを知る機会となりました。まさに「フィドルは踊る！」。やはりダンスと音楽は一体だったのです。

同時期のまたある日のこと、宝塚の商業施設のイベントで演奏していた私に、通りすがりのIさんという女性が声をかけてきました。ちょうどアイリッシュのジグを演奏していた時です。彼女はスコットランドのダンスをされていて、今度神戸で彼女が参加しているクラブのダンスパーティがあるとのこと。見に来ませんかと半ばナンパのように誘われました。これが関西ホワイトヘザーダンサーズ (KWHD) の周年パーティで、この誘いによって翌週末に見学にいったことが、私のSCDとのファーストコンタクトとなります。

4カップルが向い合いセットを組み、背筋を伸ばしてバレエのようにステップを踏む様子はエリザベス朝の宮廷舞踏のように優雅で、それがアイリッシュでも馴染みのあるジグやリールのビートで踊られているのに感激しました。このパーティにSVEPANを主宰されている田中弘美さんがいらっしやっただのも驚きでした。彼女もメンバーだったのです。

それからKWHDの例会にも足を運ぶようになりました。まずは踊りを知らなければと、その頃はダンスにも参加していましたが、次第にフィドルでの伴奏専門に。当時は適したオルタネート・チューンの選曲もままならなかったもので、使用されていたカセットテープの音源を全曲耳コピーで譜面に起こして演奏。例会を重ねる毎にレパートリーを増やしていきました。KWHDメンバーの単刀直入なアドバイスの成果もあり、テンポやグルーブも少しずつ掴めてきました。そしてついにパーティでの演奏を担当することになります。後から聞いたのですが、生演奏で踊りたかったIさんの思惑通りとなったのだそうです。



2024年6月9日 能代SCDC
小海弘子さんと

パーティの共演者としてピアノの上原奈美さんを誘いました。彼女とは「ダンスリー・ルネサンス合奏団」のメンバーが主宰する合唱団のコンサートで共演したことがきっかけでしたが、当時音大を出たばかりの上原さんもフォークミュージックに傾倒し、アイリッシュハーブの演奏や「シャナヒー」という北欧・アイルランド伝統音楽のユニットを始めただけで、日本に新しいフォークミュージックのシーンを作っていく仲間といった感じでした。その後20余年にわたり KWHD パーティでの演奏をともに担当することになります。

KWHD のパーティに毎年ご参加いただくダンサーの皆さまからもお声がけいただき、関西以外で演奏する機会も徐々に増えていきます。最初は岐阜 SCDC の 2002 年の 35 周年パーティで、恐れ多くも Muriel Johnstone 氏と共演させていただきました。その後も Keith Smith や Marian Anderson 両氏との共演の機会をいただき、その度に演奏家として貴重な経験を積ませていただきました。有田ご夫妻には本当に感謝しております。

そしてこの 2002 年の岐阜のパーティで初対面したのが小海弘子さんだったのです。その時は演奏で一緒にする機会はなかったのですが、ピアノを演奏されるということを知り譜面を交換したことを覚えています。その後数々のパーティで一緒にすることになる弘子さんとの出会いが、スコティッシュ・フィドル奏者の私のキャリアを決定づけたと言っても過言ではありません。ダンスを完璧に理解してリードしてくださる彼女との演奏は毎回とてもエキサイティングで、今でも共演する度にダンスのための演奏が何たるかを学ばせていただいています。

赤羽会館での New Year Dance 2012 以来、東京ランチでも度々演奏の機会をいただきありがとうございます。この度は私のフィドル奏者としての出自のようなものをご紹介いたしました。まだまだ志半ば。思い返せば、共演者やダンサーの皆さまに育てていただいたのだと今回の寄稿を機に再認識いたしました。これからも、もっともっとダンサーの皆さまが楽しく踊っていただけるように精進してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。



New Year Dance 2012
左から小山かおるさん(MC)・大森ヒデノリさん・小海弘子さん

ダンス名のうしろにあるもの (14) by Peter Knapman, Dance Scottish at Home, Issue 28, 1/12/2020

The Merry Dancers – RSCDS Book 4

ちょっと考えると *The Merry Dancers* メリー・ダンサーズ (陽気なダンサーたち) は、スコティッシュ・カントリー・ダンシングに関連する楽しみ (ダンサーたちは陽気、あるいはそうでないかもしれないが) を指すと思われるが、そうではなく、この題名はノーザン・ライツまたはオーロラ・ボレアリス (Aurora Borealis 北半球のオーロラ) のスコットランド風表現である。高緯度に住んでいる人々にとっては、おなじみの冬の夜に現れる光景である。むかしは、オ



ミリー・ダンサーズ

オーロラの奇妙な天空の光景は、間違いなくなんらかの前兆として見られていたに違いない。ではスコットランドでは、なぜオーロラを陽気なダンサーたちと呼んでいるのだろうか？

オークニー諸島、シェトランド諸島のようなスコットランドの北の島々では、オーロラを *The Mirrie Dancers* ミリー・ダンサーズと呼んでいる。ミリーとはきらめきを意味し、非常に適切な表現と思われる。メリーは単にミリーの転訛ではないだろうか。本当の起源が何であれ、きらめく光はオーロラの優れた描写と思われる。スコットランドのゲール語会話地域では、オーロラは *Na Fir-Chlis* ナ・フィルリスで、「活気あるもの」と訳されるが、これも適切な説明である。

スカンジナビアと違い、スコットランドはオーロラ見物にベストの地とはいえないかもしれないが、ベターではある。暗夜の下、スコットランドの北部ではその光景がしばしば見られる。ただ光害がオーロラをいくらか見にくくしている。

オーロラは北半球だけのものではなく、南半球でも発生し、そこではサザン・ライツないしオーロラ・アウストラリス (*Aurora Australis* 南半球のオーロラ) という名前になる。同じく極点に近いほどこの神秘的な光景を見るチャンスが多くなる。

オーロラを見ようとしても、オーロラは気まぐれということを知らねばならない。条件が整っていても、北部諸島の人生哲学を知る必要がある。見たいと念じれば見られるし、それほどでなければオーロラは見られない、というのがその哲学である。みなさんが本当に熱心なら、インターネット '*Aurora Watch*' から最新情報を得て、チャンスある場所に立つことができる。オーロラは、太陽から放出される電荷を帯びた粒子が地球の磁場によって屈折し、北極と南極に向かって下向きに流れて引き起こされる。

オーロラの伝説

オーロラの天空の光景は、必然的に、それが何ものであるか、そして何を意味するかに関して多くの伝説をもたらしている。スコットランド西部の島々では、オーロラは空の戦士たちの戦い、あるいは墮天使たちの戦いと信じられていた。戦いの血は地上に流れ、しばしばブラッドストーンと呼ばれる石の一種になり、そのヘリオトロープ色で見る事ができた。オーロラがとくに明るくなる時があり、輝部の下に赤い雲が見えることがある。これは妖精の血だまりと考えられていた。



サザランド・スタックポレイのオーロラ

ブラッドストーン

まれに欧州の南でもオーロラが現れることがあり、その色はふつう赤である。この珍しい光景は、戦争と流血が来る前兆であると、それを見た人々を怖がらせた。「オーロラが赤くなったら逃げろ」。フランス革命が起こるほんの数週間前、スコットランドとイングランドで劇的な赤いオーロラが現れた。

オーロラに関する他の伝説や言い伝えがある。

- ・オーロラに向かって手を振ったり、歌ったり、口笛を吹くな。光の精が現れ、あなたを連れ去るから。拍手すれば大丈夫である。
- ・アイスランドでは陣痛を和らげると信じられているが、妊婦がオーロラを見ると、生まれた子供は斜視になる。
- ・スウェーデンのある地方では、オーロラはニシンの巨群をもたらすと信じられている。出漁のときか？

オーロラは主に冬の夜に見られるので、他の真冬の祝事につながる。それでは、この神秘的な自然光の現象から、重

要な冬のできごとを特徴づける人工光の世界に移ろう。

フェスティバルと祭り

世界各地と同じく、たき火（かがり火、たいまつ）は多年にわたりスコットランドの真冬のフェスティバルの一部になっている。キリスト教以前、太陽は崇拜の重要な部分であり、火は冬至に灯される。火は春の到来を早め、夏を長引かせると信じられていた。今日、スコットランドでも火祭りは根強く残っているが、起源は遠く忘れ去られ、フェスティバルは現在、別の日、多くは新年に行なわれている。火祭りは少なくなったが、存続しているものは大がかりである。もっともよく知られているのは、おそらく1月の終わりのシェトランドのアップペリア Up Helly Aa であるが、これは別項で述べることにする。

南ラナークシャーのビガー、パースシャーのコムリー、アバディーンシャーのストーンヘブンは火祭りで年越しを祝っている。

ビガーでは hogmaney の日（大みそか）、町のマーケット・クロス（マーケット広場）に大きなたき火のやぐらを組み、たいまつ行列ののち、町の最年長の1人によって「旧年を焼き尽くせ」とばかり火が点けられる。同じころ、コムリーではフランボー（たいまつ。フランス語源）行列が hogmaney の真夜中にはじまる。樺の枝を袋で包み、ロウ液に漬けてたいまつを作るのである。たいまつはパイプ・バンドとガイザー（仮装した人たち）をともなって村を1周する。行進が終わると、フランボーはドルジンロス橋からアーン川に投げ込まれる。新年にあたり、悪霊を放逐するのである。

ビガーのたき火とコムリーのたいまつ行列が数百年の伝統を持つのに対し、ストーンヘブンのファイヤボール・フェスティバル（火の玉祭り）の始まりは1908年と記録されている。ファイヤボール・フェスティバルはキルトを着けたスインガー（振り回す人）の行進からなり、スインガーはひものついた重いファイヤボールを頭上で振り回しながらハイストリートを進む。行進は hogmaney の真夜中から始まり、ファイヤボールが海に投げ込まれて終わる。



The Biggar Bonfire



The Comrie Flambeaux



Stonehaven Fireball Festival

上：ビガーのたき火 下：コムリーのフランボー

ストーンヘブンのファイヤボール

マリー郡の北、バークヘッドに移ると数百年前に起源をもつクレビーの火祭りがあり、これにも触れる必要がある。これは hogmaney ではなく、1月11日に行われる。1月11日はユリウス暦の大みそかにあたり、バークヘッドは旧暦に忠実なのである。

hogmaney と新年の祝いは、スコットランドでも重要な祝日であり、火祭り以外に多くの伝統につながっている。地元限定されているものもあるが、海外に広まったものもあり、その1つが世界中の hogmaney と新年で オールド・ラング・サイン Auld Lang Syne (Old Long Since なつかしい昔) が歌われることである。歌詞は変わり、その意味も分からずに歌われるが、その感情と曲はそのままである。今日使用している曲はロバート・バーンズのもともとの選択ではなかったため、オールド・ラング・サインの曲と歌詞とのつながりはそれら変化の1つである。私たちは今の曲に置

き換えてくれた出版者、トムソンに感謝しなければならない。バーンズが選んだ曲は本当に素晴らしい曲であるが、トムソンが今日私たち全員が歌っているおなじみの曲に変更していなかったなら、その曲が非常によく歌われていたかどうかを推測するのは興味深いことである。



エジンバラのホグマニー

みなさんご存じと思うが、*Auld Lang Syne* は RSCDS Book 27 のダンスの1つで、原典はトマス・ウィルソンの *A Companion to the Ballroom* である。トマス・ウィルソンが、今日私たち全員が知っているおなじみの曲を使用したにもかかわらず、不思議なことに、RSCDS はこのダンスの曲に、歌に関連する2つの曲のどちらも選ばず、ピーター・ミルンのストラスペイ James O Forbes of Corse をオリジナル・チューンに選んでいる。

スコットランドの歴史で、この日は from Dance Scottish at Home, Issue 28, 15/1/2021

Up Helly Aa

1月はシェトランド諸島で毎年恒例の最大の火祭り、アッペリア Up Helly Aa の時期である。ここではフェスティバルの起源について少しくわしく述べる。

アッペリアとはなにか

シェトランド諸島で毎年冬に開催される一連の火祭りである。素晴らしい光景とシェトランドの歴史を祝う。ラーウィックでは1日限りの祭りで、1年に1回、夜通しで行われ、数千人が参加する。

シェトランドの島々全体でいくらか違った12の形があり、同じ日にこどものために行われるジュニア・バージョンもある。イベントには、行進、家の訪問、ダンス会が含まれ、聖火の行列とバイキング船の炎上で終わる。

その名の由来は？

コリンズ社のポケット辞書によれば、「Up」は「終わり」を意味し、「Helly Aa = Haliday」は「休日」のスコットランド式表現である。Up Helly Aa は、火、ごちそう、楽しみつきのクリスマス祝祭の最後の日を表すと信じられている。

アップペリアはいつごろから始まったか？



この祭りの起源は1800年代の初め、変装した若者たちが樽のタールに火をつけ、そりに載せてシェトランドの首都、ラーウィックの通りを引き回したときにさかのぼる。このイベントは新年に移ることを記念する、クリスマスの伝統行事に結びついていた。タールは燃えながらこぼれることがあり、地面を汚すため、1874年にタール樽は禁止されることになった。だが、若者連中はものともせず、やり方に磨きをかけた。これが1881年にアップペリアのたいまつ行列をもたらした。ラーウィックの詩人、J. J. ハルダン・バージェスが小説「The Viking Path バイキングの道」を1894年に著すまで、祭りにバイキングの雰囲気は

なかった。小説には、Guizer Jarl ガイザー・ジャールと、模造のバイキング船の炎上など、現在のアップペリアの一部となっているイメージが含まれていた。第2次大戦後、アップペリアは大きなフェスティバルとなり、ラーウィックの大ホールでバンドやダンス会が夜通しで催されるようになった。



どんな人が参加するのか？

戦士に扮した「guizer ガイザー」と呼ばれる約1,000人が参加する。彼らは、バイキングの格好（甲冑を着て、帯剣する）をした分隊長に率いられ、「squad 分隊」グループでパレードする。ガイザーたちはそれぞれ、ロウをしみこませた材料を先端に取り付けた棒を運ぶ。これでバイキング船に火をつける準備完了である。他のチームは、崇高なものからばかばかしいものまで、思い思いの扮装をしている。フェスティバルの責任者は、バイキングのチーフを表すガイザー・ジャールである。

アップペリアでどんなことが起こるのか？

イベントは分隊が集まったときから始まる。午後7時30分きっかりに、合図のロケットが市庁舎上に打ち上げられ、たいまつに火がつけられる。行進が始まり、ガイザー・ジャールが燃やされる予定の長大な船に乗り込む。やがてジャールは船を離れ、たいまつが船に投げ込まれ、数か月間にわたり苦労して作った船を炎上させる。夜は続き、分隊はラーウィックの各ホールを順繰りにめぐり、日がさす前のダンシングまで「得意芸」や「寸劇」を演じる。スコティッシュ・ダンス・バンドのミュージシャンの多くは、アップペリアの演奏経験から、面白い逸話をもっているはずである。

フェスティバルの感覚を得るには、インターネットで「Up Helly Aa」を検索すれば詳細がわかる。

The Paris Book of Scottish Country Dances volume 3 … ブックのみ

- | | | |
|---------------------------------|---|--|
| 1. Théorème de Fermat (8x40J) | 7. Le Béret Rose (8x32J) | 12. Encore en Corps (8x32S) |
| 2. Montorgueil Queen (8x32R) | 8. Where is My Fiddle? (3x32S+3x32R) | 13. A Contra Dance Weekend in Normandy (2x32S+2x32R) |
| 3. The Partisan (3x40S) | 9. Thank You, George (4x32S) | 14. Lose Yourself to Dance (3x32S) |
| 4. Cinq without Trace (5x32J) | 10. Emmy's Wedding (4x40R) | 15. Chase Halfway in Brittany(4x40J) |
| 5. Rosemonde in Normandy(3x48R) | 11. A Jig for Tom or 21 in Celsius! (8x40J) | 16. Aurores Boréales (8x40R) |
| 6. Two Men Dancing (6x32S) | | |

東京ランチと同じく、ことし 40 周年を迎えたパリ・ランチのダンス・ブックである。会員がつくった 16 ダンスを収録している。そのうち 7 ダンスは 40 小節以上の長さで、高齢化の進むわがランチと異なり、パリでは若いダンサーが大多数を占めているのであろう。表紙のダイヤグラムは'PARIS'を示すもので、単なる装飾である。他のダンスとの違いを明らかにするため、細工を施したダンスばかりであるが、そのぶん踊りにくいダンスが多く、ダンス会において 1 回のウォークスルーでみなが楽しめるようなダンスではない。要約すれば独創性は十分にあるが単純性に欠け、中級以上のクラス向きである。巻末にダイヤグラムつき、チューン集は別ブックである。

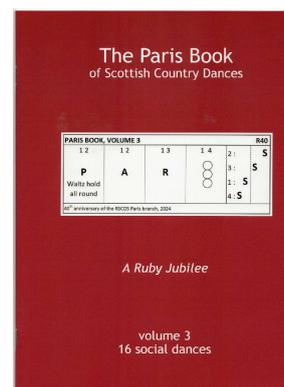
Théorème de Fermat (テオレーム・ド・フェルマー、フェルマーの定理) の 1~8 小節は不要ではないかと思われる。33~40 小節で、1st カップルが figure of love を踊ると同時に 2nd & 3rd カップルがダイヤゴナルに allemande right を踊るのはおもしろいが、果たしてここまでやる必要があるのか、の感じがしないでもない。**Montorgueil** (モントルゲイ。パリ中心部の食料品店やカフェの多い庶民的な通り) **Queen** は、キース・スミスの奥さんになったアンヌローラ・ラトゥール (東京ランチ Weekend 2019 のピアニスト) の結婚の折に、姉のアリエノール・ラトゥールが作った易しいリール。**The Partisan** はカナダ生まれのシンガーソングライター、レナード・コーエンの歌う The Partisan に触発され、D-Day 75 周年を記念して、パルチザン (レジスタンス) であった祖父とその同志に捧げられた踊り。作者は 19~24 小節、3 カップルともパートナーとしっかりアイコンタクトを保ったままジプシー・ターンしてほしい、と言っている。**Cinq** (サンク、5 人) **without Trace** は Best Set in the Hall に出てくる set & cast back を 4 回繰り返す。25~28 小節、プログレッションのつじつまを合わせるためといえ、5th & 4th men と 4th & 2nd women は 3 places の chasing、同時に 5th woman & 2nd man は 4 places の chasing には首をかしげる。

Strathspey poussette の 3~4 小節で cast back を行ない、男どうし、女どうし、ジェンダー・ニュートラルで踊り続けるというのが **Two Men Dancing** (男 2 人でダンシング)。ヤンガーホール・ビデオのデモで Elspeth Gray's Reel を男 2 人で踊っているが、その一人のエメリ

ック・フロメルがこのダンスを作り、もう一人のニオル・ジャンヌローがチューンを作った。男役しかできない、あるいは女役しかできないと言っているダンサーに踊らせた踊りである。**Le Béret Rose** (ル・ベレ・ローズ、ピンクのベレー帽) 賑やかでおしゃべり好きのパリ人、マチア

ス・フェルベにちなんだジグ。**Where is My Fiddle?** はフィドルのワークショップ中に先生であるアレスター・フレイザーのフィドルが行方不明となり、2 日後に生徒のフィドルの山の中から見つかった出来事をタイトルにしたものである。ダンスの中にそれを表現した動きがあるかという、何も無い。**Thank you, George** は 4 カップルで hello-goodbye setting をやる踊りで、いわば Wicked Willy のストラスペイ版である。**Emmy's Wedding** では、2nd カップルは step up した後、残りの 36 小節はダンシングに加わらず、他の 3 カップルの踊りを見ているだけ。**A Jig for Tom or 21 in Celsius!** は由来の記入がなく、トムが誰を指すのか、セ氏 21 度がどのような意味を持つのか不明。熟考すれば、1~16 小節は 8 小節にまとめることができるはずである。

Encore en Corps (アンコール・アン・コール) はジュネーブにあったダンス会場の名前で、日本でいうゴロ合わせである。reels of three, set & link three, diagonal rights & lefts を組み合わせただけのストラスペイで、そのぶんこのブックの中でいちばん踊りやすい。**A Contra Dance Weekend in Normandy** はスクエア・セットで、『2023 年 5 月、ノルマンディーのアメリカン・コントラダンス・ウィークエンドで、SCD 体験クラス用に作ったダンスである。SCD 未経験者のためにコントラダンスでも使われているヘイ (reels of four) を取り入れた。このメドレーダンスはウィークエンドを企画したローレット・タッカーマンに捧げたものである。』と述べている。Culla Bay に似た動きがあり、おもしろいダンスである。**Lose Yourself to Dance** は直訳すれば「ダンスに身を任せて」で、circulating knot が特徴。説



明書きのとおりやると 1st カップルは opposite sides で終ることになるので、23~24 小節で 1st カップルはフルターンしたほうがよい。**Chase Halfway in Britany** はその名のとおり CW の chasing 1/2way round が 2 回、ACW の chasing 1/2way が 1 回出てくる。opposite sides へ行ってから own sides へ la baratte をやり、そしてま

た own sides へというややしつこいジグである。

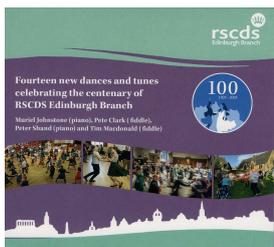
Aurores Boréales (オーロル・ボレアル)、作者は set & link three と dolphin reel of three が好きで、それを取り入れたという。この 2 つのフォーメーションでオーロラの動きを示しているとのことだが、32 小節に短縮できなかったのかと思う。★★★ [注文略号：パリ・ブック]

14 New Dances and Tunes Celebrating the Centenary of RSCDS Edinburgh Branch … ブック & CD

- | | | |
|---|--------------------------------------|----------------------------------|
| 1. Fancy That – A Hundred Years (8x32R) | 6. The 70th Jubilee (8x32R) | 11. The Task Mistress (5x40R) |
| 2. Bob Grant of Edinburgh (4x32S) | 7. Esmé Randall's Strathspey (4x32S) | 12. The Silver Triumph (3x32J) |
| 3. On to New Horizons (8x32J) | 8. 100 Years and Counting! (8x32R) | 13. Jock's Lodge (4x32S) |
| 4. Joppa Rocks (8x32R) | 9. A Centenary Medley 4x(32S+32J) | 14. The Roaring Twenties (8x32R) |
| 5. Miss Dorothy Leurs (8x32S) | 10. Perpetua (8x32S) | |

パリが 40 年ならば、エジンバラは 100 年である。独創性を表すダンス上の細工はパリ・ブックに比べれば穏やかである。ダイアグラムは巻末に、楽譜はすべてのダンスにある。

Bob Grant of Edinburgh はイアン・ブロックバンクの作で、イアンに full round poussette を教えてくれた故ボブ・グラントにちなんで



いる。このダンスで full round poussette は RSCDS マニュアルにあるダイアゴナル・スタートではなく、New Park (Book 19) の注記にあるのと同じく、ボブが主張したオリジナル・スタイル

ル、つまりクイックタイムの poussette と同じようにセットの中心線上からスタートするやり方となっている。

Joppa Rocks をネットで調べると海鮮レストラン記事ばかりであるが、市の東にある海岸の名である。**Miss Dorothy Leurs** (ルアーズ) はジョン・ウィルキンソン作。彼にしては穏やかなダンスである。女王の在位 70 年を祝う **The 70th Jubilee** に難しい動きはないが、2nd・3rd カップルも動きっぱなしなので、8 回踊るといささか疲れる。

Esmé (エズミ) **Randall's Strathspey** はクレメント篤子さんの作。4 カップルが promenade に組んで half reel of four をやるところが面白い。このダンスの full round poussette もセットの中心線からスタートするダイヤモンド・プーセットである。作者によればこのダンスの bar 10 の踊り方説明ならびにダイアグラムに不具合があり、「On bar 10, 1st and 4th couples curve round CW half way, finish to 1st couple facing down and 4th couple facing up」を加えるべきとのことである。

100 Years and Counting! は日本ではほとんど踊られない coupé pas de basque が入っている。**A Centenary Medley** は 64 小節を続けて踊るので、頭の固くなった私には動きを覚えるのが難しい。**Perpetua** は The 70th Jubilee のストラスペイ版で、RSCDS 中枢での活躍を期

待されながら亡くなった夫君のブライアン・ハリーをしのお踊り。

このブック中唯一の 5 カップルダンスが **The Task Mistress** で、創案に苦勞したことがうかがえる。クラスで 5 カップルを指導し、ひと通り踊り終えるには 1 時間くらいかかる 40 小節の 5 カップルダンスである。**The Silver Triumph** は三角セットのジグ。13~24 小節で男はちょこっと動くだけ。スタートの場所は違えど 3 カップルともまったく同じ動きを 3 回繰り返すので、先週のクラスでやって今週もこのジグをやるとしたら、会員からもういいよ、の声があがるかもしれない。**Jock's Lodge** は Joppa Rocks と同じくアレックス・グレイの作で、彼は rosette ローゼットが好みの方である。**The Roaring Twenties** では、3rd コーナーから始める hello goodbye setting が興味深い。★★★ [注文略号：エジンバラ・ブック]

CD 表紙には 4 人のミュージシャン名がクレジットされているが、実際のトラックはミュリエル・ジョンストン (ピアノ) + ピート・クラーク (フィドル) と、ピーター・シャンド (ピアノ) + ティム・マクドナルド (フィドル) の組合せで演奏されている。たとえば **Bob Grant of Edinburgh** はミュリエルとピート、**Joppa Rocks** はピーターとティムといった具合である。

演奏に造詣の深い人ならどのトラックがどの組合せかがすぐ分かると思うが、4 人とも名手であり、演奏者の癖が分からない私にはどのトラックも同一のミュージシャンが演奏しているとしか思えない。オリジナル・チューンはすべて該当するダンスのために新たに作られた曲である。どのトラックも軽快で躍動的である。好みからいえば、ジグでは On to New Horizons、リールは The Roaring Twenties、ストラスペイは Esmé Randall's Strathspey がよいと思う。紙ケース入り。★★★ [注文略号：エジンバラ CD]

* * * * *

ご注文は注文略号、数量、金額を明記のうえ、郵便振替 00240-00-63517 東京ブランチ

でお申し込みください (送料込み)。

パリ・ブック	¥3,100
エジンバラ・ブック	¥3,000
エジンバラ CD	¥3,500
エジンバラ・ブック + CD	¥5,700

ショップ担当 横尾容子 047-447-5863
締切り 1月10日 (金)
(締切りを過ぎての送金をご遠慮ください)
お渡し予定 2月中旬

五十嵐成子さんを悼む

ードロシー・スコットー

マガジン 39号で五十嵐成子さんが亡くなられたことを知り、とても悲しく思っています。私は80年代、90年代にダンファームリンの家からセント・アンドルーズで過ごした2週間を思い出します。成子さんに初めて会



ったのは90年代だったと思います。彼女はとても優秀で素敵なダンサーでした。スクール以外の経験もしてみたらと投げかけ、私の車でカーナスティのダンス会に2、3回行ったこともあります。彼女はすばらしいキャラクターのある人でした。

彼女が率いた日本人ダンサーたちによる、金曜日夜のケイリのデモンストレーションはビューティフルでした。私はそれらの日々をなつかしく思い出します。成子さんは35年も踊り続けたとのこと、ゆっくりお休みください。

クラスで踊られたダンス

10月19日 辰巳由利子

Dancing in the Street	32R	Book 42
Oriel Strathspey	32S	Book 32
The Laird of Milton's Daughter	32J	Book 22

Cape Town Wedding 32S Book 39

11月17日 富谷佐千子

Mrs Stewart's Jig	32J	Book 35
Roaring Jelly	32J	Foss
Fair Donald	32S	Book 29
The Saltire Society Reel	32R	Leaflet
The Braes of Breadalbane	32S	Book 21
John Cass	32J	Book 49
The White Cockade	32R	Book 5
Mairi's Wedding	40R	30 Pops 2

1月 ブランチニュースは休みます

1月のブランチニュース、ブランチレターの発行はなく、次回発行は2月下旬になります。この間のお知らせはブランチホームページをご覧ください。

お問い合わせ、ブランチ活動やレターに関するご意見・ご感想など、遠慮なくセクレタリ西森典子までお寄せください。グループちらしの配布依頼も西森あてにお願いします。